

# 保育学科学生の基本的な行動と礼儀作法の問題点

## ——自己認識と実習園の評価を比較して——

佐藤 達 全

### 概 要

「保育は人である」とよく言われる。乳幼児期の特性の一つが「まねる」(学ぶの語源)ことである点から、人的な環境としての保育者の一挙手一投足が子どもの行動の仕方や成長・発達を進み具合を左右し、さらには子どもの心にも作用して将来の人間性に大きく影響することは言を俟たない。

それゆえ、保育者には「子どものお手本」としての行動が求められることは当然であるが、それだけでなく「人間」としてどう生きてらよいかについても日頃から考えておかなければならないのである。

しかし、実際に保育者を目指している学生にはそうした意識は強くないどころか、さまざまな問題行動が存在するように思われる。そこで、学生の行動の実態と自己認識を調査し、さらに実習園からの評価と比較しながら考察した。その結果、望ましい保育者を育てるために重要ないくつかの問題点がみつかった。

## 1. 「生理的早産」な人間と保育者

人間が他の動物といかに異なる成育過程をたどるかを明らかにしたスイスの動物学者ポルトマン(Adolphe Portmann, 1897~1982 バーゼル大学教授)は「人間は生理的早産である」と言っている。彼は、人間は他の動物と比べて身体の組織や機能の面からすると、何らかの理由で一年ほど早く生まれるようになったと考えた。これは、必ずしも人間の欠点という意味ではない。

それゆえ、オランダの教育学者のランゲフェルト(Martinus Jan Langeveld, 1905~1989)は、人間は「教育されねばならない動物(animal educandum)」と言うのである。つまり、人間の赤ん坊が組織的・機能的に未成熟で誕生することは必ずしもマイナスということではなく、誕生後の働きかけによって未成熟な機能が飛躍的に変化し発達する可能性を秘めているという見方につながるのである。

もちろん、その際には未成熟なるがゆえに十分な「保護」が不可欠であることは当然であり、性

急に多くの「知識」や「技能」を教えこむことには慎重でなければならない。このことに関しては人間の探究に「生命誌」という新たな視点を開拓した中村桂子(JT 生命誌研究館館長)が、

他のほ乳類は、生まれた時に脳がほぼ完成しているのに、人間の脳は誕生後に成長する。この脳が成長過程にある幼年期は、どこの国でも学校に行かない。それは、この時期には、脳で考え、行動する基本となる感覚を養うため、身体で人間関係を学んだり、生き物の不思議さを感じる体験をすることが大切だとされてきたからです<sup>(1)</sup>。

と述べていることから明らかであろう。

つまり、乳幼児期の子どもにとって大切なことは、できあいの知識を詰めこむのではなく、日々の体験から主体的に学び取れるような環境を提供することである。こうした視点は幼稚園や保育園の保育のあり方に対する岸井勇雄の、

一般に、幼児教育といえば早期開発教育や一斉授業を連想し、保育所保育までが幼稚園に追いつき追い越せとばかりにその方向に走る傾向

さえあった。新幼稚園教育要領（筆者注：平成元年改訂版のこと）が今まで以上にはっきりとその方向を否定し、それに応じて改訂された保育所保育指針とともに、幼児本来の生活を守り支えることにより幼児期本来の発達を保障しようとする方向を打ち出したことで、幼児教育が保育でなければならないことがいっそう明確になり（後略）<sup>(2)</sup>、

という見解や、森隆夫の

幼稚園には就学前教育としての役割もあるが、それは知的早教育を意味するものではない。昨今、文字や数量の指導を画一的に行う幼稚園もみられるが、それは、知識の増加には役立っても、知恵をつけることにはならない<sup>(3)</sup>。

という意見にも共通しているところである。

いずれにしても、この時期の子どもにとって最も大切なことは言葉による知識の注入よりも、周囲の人やものとの関わりから体験的に学び取ることといえるであろう。人間形成は遺伝的情報として子どもに備わっている資質と誕生後の生活環境から受ける刺激が複雑に絡みあって行われるものであるが、未成熟なるがゆえに可塑性に富んでいる子どもの人間形成にとっては、この世に生を受けて最初に出会う人間関係としての親子や家族はもとよりのこと、保育園や幼稚園における保育者や友達との人間関係が大きな意味を持っていることは間違いない。

子どもが成長する過程においては、さまざまな人やものや自然環境との出会いを通して有形無形の影響を受けるが、ここでは意図的な教育の場としての保育園や幼稚園における人的な環境としての保育者のあり方について考察してみよう。

## 2. 保育者は「お手本」

保育者を目指す学生の中には「子どもにお勉強を教える」と考える者が少なくない。たしかに保育園や幼稚園では、歌やお絵かきの「練習」をしたり、時には文字や数を「教え」たりしている。

しかしそれは子どもの発達や成長を見つめる視点の一つであり、発達や成長を援助するための方法であって、それ自体が目的ではないことは言うまでもない。このことは、経験豊かな現場の保育者から寄せられる、

\*（最近の学生や保育者は）「保育」に対するイメージというか理念が現場と離れているように思います。「生活」ということが抜けてしまって、保育士が製作やお絵かきを教えることが保育とと思っている人が多いようです。保育のプロはこの辺をよく考えてほしいと思います。（A 保育園長）

\* 技術にばかり目がいってしまって、子どもを思いどおりに動かせるのがいい保育だと思っている人がいます。けれども、保育の基本は人間性そのものだと思います。ですから、学生にはそのことをしっかりと教えてほしい。（B 幼稚園長）

\* 家庭における育て方が変わってきたのでしょうか。ごく当たり前の日常的なことができません。（C 幼稚園長）

\* 日常生活に必要な躰・知識・人間関係などに問題のある学生が多くなっているように思います。（D 保育園長）

などといった意見に端的に示されている。そういった発言の背景に「環境を通しての教育」が強調され、「幼児期にふさわしい生活を重視し、遊びを通して望ましい成長や発達を援助する」という保育の基本的な理念（幼稚園教育要領・保育所保育指針）があることは言を俟たないであろう。

このことについては柴崎正行（元・文部省幼稚園課教科調査官）が、

（幼稚園教育の基本は）環境を通して行う教

育ということであり、具体的には幼児期にふさわしい生活を重視して行うことである(後略)<sup>(4)</sup>と述べており、そのためには

まずは保育者自身が生活者として主体的に園生活に取り組んでいることが必要になります<sup>(4)</sup>。

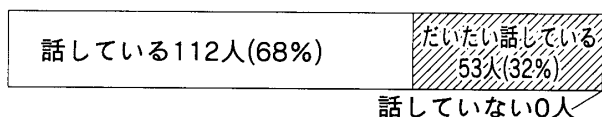
と、保育者自身の言動が問題になると指摘しているように、子どもは仲間や保育者と日々の関わりを通じて主体的に自己の人間形成を行っているのである。このように考えてくると、保育者がどのような意識をもって日々の生活を営んでいるかに大きな意味のあることがわかる。

それでは、保育者(ここでは保育者を目指している学生)が子どもの人間形成のきわめて基層的な部分に係わる問題として、自分自身の言葉づかいや挨拶・返事などについて、その重要性(子どもに及ぼす影響がいかに大きい)をどれだけ自覚しているであろうか。残念ながら授業中の態度や大学内で目にする彼らの行動を見るかぎり、不安な点がしばしば見受けられる。しかも、そうした点を繰り返し注意してもなかなか改まらないのが現実である。

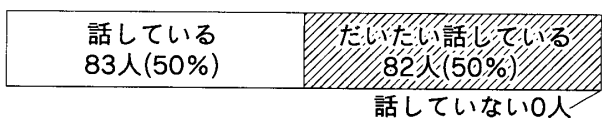
### 3. 学生の自己認識

そこで、学生の実態と自分の行動をどのように認識しているかをアンケート調査してみた。次に示したのはその結果の一部である。調査は2年生(191人)を対象に行い、165人から回答を得た。

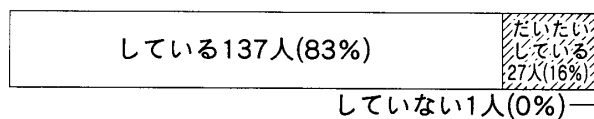
<質問1>目上の人に丁寧な言葉で話していますか。



<質問2>目上の人に敬語や謙譲語を使って話していますか。



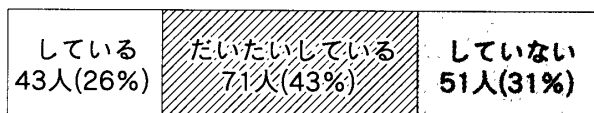
<質問3>目上の人にきちんと挨拶していますか。



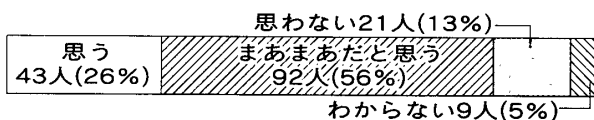
<質問4>自分の部屋をいつも整理整頓していますか。



<質問5>父母に呼ばれたときには「はい」と返事をしていますか。



<質問6>あなたは自分の性格を積極的だと思いますか。



挨拶や言葉づかいに関しては、この回答を見るかぎり特に問題は見当たらない。また<質問4>の「整理整頓」については、実際に学生の部屋を点検したわけではないので、自己評価が適切かどうかをコメントすることはできないが、学生自身は特に問題がないと考えていることが伺える。

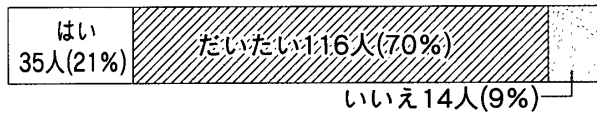
気がかりなのは<質問5>の「返事」と<質問6>の「積極性」についてである。自分を「積極的だ」と評価している学生は26パーセントに過ぎなくて、「だいたいしている」「まあまあだと思う」と回答した、それぞれ43パーセント56パーセントの学生の行動が、実習園の先生方にどのように評価されているのであろうか。

さらに、自分の行動を総合的に判断して基本的な生活習慣や礼儀作法が身についているかどうかを回答してもらったのが<質問7>と<質問8>である。

<質問7>あなたは基本的な生活習慣を身につけていると思いますか。



<質問8>あなたは基本的な礼儀作法を身につけていると思いますか。



いずれの質問に対しても「はい」と明確に答えられた学生は少なく（質問の性質上、遠慮がちに答えざるを得ないのかもしれないが）、「だいたい」というあいまいな回答がかなり多い点に特徴がある。これが、実習園での評価と学生本人の認識の「ズレ」を生じさせる原因ではないかと思われる。

#### 4. 実習園からの指摘

それでは、こうした学生の自己認識に対して実習を受け入れた保育園や幼稚園の評価はどうであろうか。今回は1年次の保育実習（2002年2月に2週間実施）と2年次になっての教育実習（2002年6月に3週間実施）の評価表（191名）に記載されているコメントの中から、ピアノや指導案の作成・担任実習などに関する部分を除いた基本的な行動について調べてみた。

その結果、問題点や改善点を指摘された学生は保育実習では59名（31パーセント）、教育実習では67名（35パーセント）であり、そのうちかなり厳しい指摘を受けた学生は保育実習では19名（10パーセント）、教育実習では13名（7パーセント）であった。指摘された点と指摘された学生数は次のとおりである（類似した項目はまとめて集計してある。なおいくつかの問題点を重複して指摘された学生もいるため、合計数は実際の学生数よりも多くなっている）。

	保育実習	教育実習
積極性が不足している	26名	15名
明るく行動してほしい	9名	11名
声が小さい	9名	4名
きちんと挨拶できない	9名	2名
笑顔が不足している	7名	
意欲が感じられない	7名	9名
わからなくても質問がない	7名	
言葉遣いに問題がある	5名	17名
指示されないと動かない	5名	6名
健康管理が不十分である	3名	8名

これをみると、1年次の保育実習では現場での体験が少ないためか、積極的に行動できなかったり緊張のあまり明るさに欠けていたりという指摘や、声が小さく挨拶もしっかりとできていないなどの指摘が目立ったが、2年次の実習では積極性や声の大きさ・挨拶などは多少改善されている。その反面、実習に慣れて緊張感が薄れたためなのか、言葉の悪さや健康管理の問題が見られた。

このほかに、1年次で「実習態度がよくない」（4名）「実習生同士の私語が気になる」（1名）という指摘があり、2年次では「園庭で子どもと遊ぶとき地べたに座りこんでいる」（2名）「提出物の期限が守れない」（1名）と指摘されていることから、一部とはいえ実習に取り組む姿勢に問題のある学生がいたことがわかった。

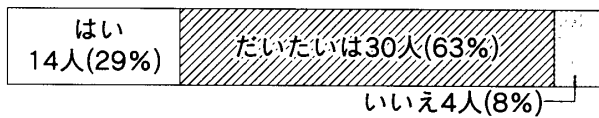
その一方、日頃のノートの書き方がお粗末なことから心配していた「実習日誌やレポートなどの書き方」や「服装」についての指摘は多くなかった。しかし、2年次の実習で「背中が出るようなだらしない服装の学生に何度注意しても改まらなかった」という指摘が数件あったことから、日頃の学生生活における「若者のファッションと現場で求める保育者としての感性の問題」として考えていく必要があると思われる。

#### 5. 指摘を受けた学生の自己評価

そこで、実習園から指摘を受けた学生が自分の

「大人として」の基本的な行動の習慣や礼儀作法をどのように自己認識しているのかを調べてみたところ、次のような意識を持っていることが明らかになった。

<質問7>あなたは基本的な生活習慣を身につけていると思いますか。

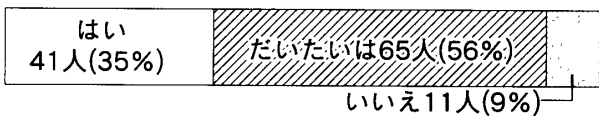


<質問8>あなたは基本的な礼儀作法を身につけていると思いますか。



この結果を指摘を受けなかった学生と比較してみると、次のようである。

<質問7>あなたは基本的な生活習慣を身につけていると思いますか。



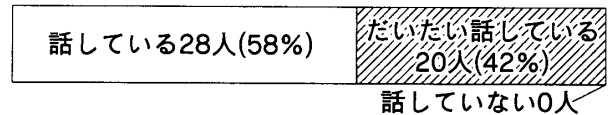
<質問8>あなたは基本的な礼儀作法を身につけていると思いますか。



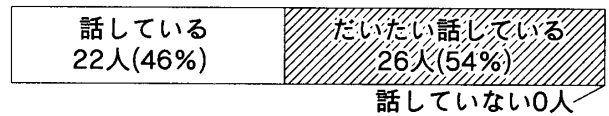
このことから、大人としての基本的な行動の習慣に関しては、指摘を受けた学生の方が「身につけている」と考えている数が少なく、「だいたい」というあいまいな意識をしている場合の多いことがわかる。また基本的な礼儀作法に関しては「身につけている」という回答は同じ割合であるものの「だいたい」が多いことから、さらに認識の甘いことが伺える。

このほか「丁寧な言葉」「敬語」「返事」に関しても、

<質問1>目上の人に丁寧な言葉で話していますか。



<質問2>目上の人に敬語や謙譲語を使って話していますか。

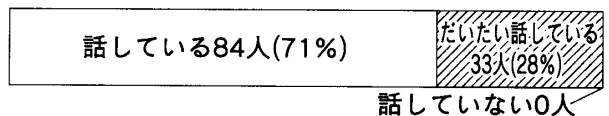


<質問5>父母に呼ばれたときには「はい」と返事をしていますか。

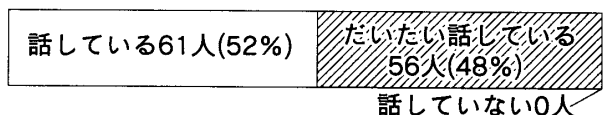


という結果が出ていて、指摘を受けなかった学生の、

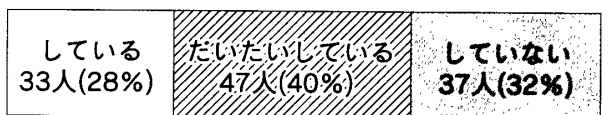
<質問1>目上の人に丁寧な言葉で話していますか。



<質問2>目上の人に敬語や謙譲語を使って話していますか。

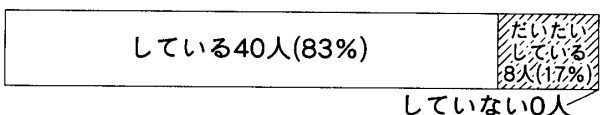


<質問5>父母に呼ばれたときには「はい」と返事をしていますか。

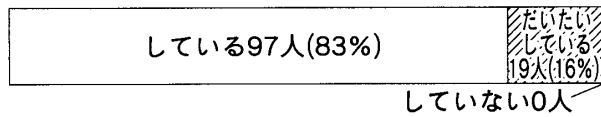


という結果に比べると、確実に実行している学生の少ないことがわかるであろう。ただ「挨拶」に関しては、指摘を受けた学生の回答が、

<質問3>目上の人にきちんと挨拶していますか。



であるのに対し、指摘を受けない学生の回答は、  
 <質問3>目上の人にきちんと挨拶していますか。



であって、全く違いはなかった。

こうしたことから、実習園で大人としての基本的な行動や礼儀作法の問題点についての指摘を受ける理由の一つに、「このくらいでよいだろう」と考えている学生の自己認識の甘さを上げることができるのではないだろうか。

また、普通の授業で挨拶や言葉づかいなどの問題点を注意しても、かなりの学生が「いざとなったらできる」と高を括っている雰囲気も感じられる。けれども、日常的で基本的な行動であればあるほど、無意識に身体が動いてしまうこともよくあるから、日頃の習慣づけが重要であることは言うまでもない。

さらに、実際にこうした問題点が実習先から指摘されていることを学生に伝えた場合に、「私はきちんとやっていました」という反論の帰ってくることも少なくない。このことから、学生が自分では「やっているつもり」と思っている、それが社会人としての基準で判断されると確かな行動とは評価されず、習慣づけるのできていない行動では、いざという時に相手には伝わっていないことがわかるであろう。

## 6. 2回とも指摘を受けた学生について

それを裏づけるために、1年次と2年次の実習で2回とも指摘を受けた24人の学生がどのような点が問題とされているかについて保育園と幼稚園に分けて比べてみた。指摘された主な項目は次のとおりである。

[学生A]

保育園 積極性がない

幼稚園 消極的である 明るさがない

[学生B]

保育園 元気がなく消極的 意欲がない  
 子どもの中に入らない

幼稚園 笑顔がない 消極的である

[学生C]

保育園 明るさがない 意欲がない  
 自分から動こうとしない  
 助言を素直に聞かない

幼稚園 挨拶しない 反省する気持ちがない  
 助言に対して言いわけする

[学生D]

保育園 声が小さい 明るさがない  
 積極性が欲しい

幼稚園 積極性がない

[学生E]

保育園 消極的である

幼稚園 明るさがなく無表情  
 できなくても努力しようとしていない  
 文字がきちんと書けない

[学生F]

保育園 笑顔がなく暗い感じ 消極的である

幼稚園 積極性がない  
 特定の子どもとしか遊ばない

[学生G]

保育園 消極的である

幼稚園 大人としての言葉づかいができない  
 周囲への気配りがない 準備不足

[学生H]

保育園 子どもの中に入らない  
 すすんで動こうとしない

幼稚園 言葉づかいが悪い 動作を機敏に

[学生I]

保育園 活動的でない 存在感が薄い  
 言葉や態度が幼稚である

幼稚園 積極性が欲しい

[学生J]

保育園 言われないと動かない

文章の書き方に問題がある  
 幼稚園 自分から動こうとしない  
 元気が欲しい  
 [学生K]  
 保育園 積極性がなく自分から動かない  
 準備不足である  
 幼稚園 服装が乱れている  
 期限までに提出物が出せない  
 [学生L]  
 保育園 だらしがなく提出物を出さない  
 幼稚園 日誌に誤字が多い  
 [学生M]  
 保育園 積極性がなく 挨拶をしない  
 日誌を提出しない 意欲がない  
 勝手に判断して行動する  
 幼稚園 内向的で挨拶ができない  
 やる気がない 言い逃れが多い  
 提出物が期限までに出ない  
 [学生N]  
 保育園 無口でおとなしい 笑顔がない  
 印象が暗い  
 幼稚園 笑顔がない 言葉かけがない  
 言わないと動かない 意欲がない  
 [学生O]  
 保育園 活発さがなく 体力不足  
 笑顔がなく言葉が少ない  
 特定の子どもとだけ遊ぶ  
 幼稚園 毎日のように遅刻する  
 日誌が提出できない  
 [学生P]  
 保育園 笑顔がない 動きが悪い 消極的  
 特定の子どもとだけ遊ぶ  
 幼稚園 笑顔がない 表情を豊かにして  
 [学生Q]  
 保育園 笑顔がない もっと積極的に  
 幼稚園 子どもの中に入らない  
 気配りが欲しい 積極性がなく  
 [学生R]

保育園 気配りが感じられない  
 幼稚園 健康管理ができていない  
 [学生S]  
 保育園 積極性がなく 質問がない  
 幼稚園 意欲が感じられない  
 [学生T]  
 保育園 挨拶ができない 口調が強い  
 わからなくても質問しない  
 幼稚園 指示に従わない  
 子どもへの言葉かけが事務的  
 [学生U]  
 保育園 積極性がなく  
 幼稚園 自分から動こうとしない  
 意欲がない 特定の子どもと遊ぶ  
 [学生V]  
 保育園 積極性がなく 目的意識がない  
 実習生同士で私語をしている  
 幼稚園 活発でなく元気に遊ばない  
 [学生W]  
 保育園 積極性がなく  
 自分から子どもに話しかけない  
 幼稚園 自分から動こうとしない  
 子どもに話す言葉が乱暴である  
 [学生X]  
 保育園 挨拶をしない  
 幼稚園 言葉が乱暴 語尾に変な癖がある

これを見ると、保育園の実習から幼稚園の実習までに4か月ほどの時間が経過しているが、基本的な行動に関してはほとんど変化が見られず、実習園が変わっても同じような指摘を受けていることがわかった。

## 7. 2回とも指摘を受けた学生の問題点

同様の問題点を繰り返し指摘されることには、いくつかの理由が考えられよう。第一は、挨拶や返事・言葉づかいなどの基本的な行動の習慣や礼儀作法などは短大に入学するまでにその「行動の

仕方」がほぼ身につけていて、急に変えることは難しいからである。

第二の理由は、保育実習が2月に行なわれるので、実習終了後は春季休業になってしまい、実習園からの評価を一人一人の学生に説明する時間がとれないことである。そのため、2年生になってから授業の合間を利用して研究室で個人的に問題点や課題を説明するようにしているが、自分の評価を聞きに来る学生は60パーセントたらずで、しかも進んで聞きに来るのはほとんど成績良好な学生に限られている。

実習先から指摘された事柄をしっかりと受け止めてほしいと思う学生はなかなか研究室を訪ねてこない。そのため、授業の中で機会をみつけては全体の学生に対して問題点を指摘するように心がけているが、その場合も聞いてほしいと思っている学生ほど自分の問題として受けとめていないようである。このことは、6月に行なわれる幼稚園の実習でも同様で、評価が送られてくるのは夏休みに入る頃になってしまうため、一人一人に対する指導は必ずしも十分とは言えない。

このようなことは、実習だけでなく他の教科にもあてはまる。たとえば、筆者は「国語表現」という演習授業も担当しているが、文章の基本的書き方についての解説をしてもなかなか徹底せず、同じ間違いを何度も繰り返す学生が少なくない。そのため、一人一人に文章を書いて提出させ、それを添削することで自分の間違いに気付かせるようにしている<sup>(6)</sup>。

2回続けて問題点を指摘された学生の自己評価を見ると、そうした傾向がはっきりとわかる。たとえば「挨拶」「言葉づかい」「敬語」「整理整頓」「返事」などの基本的な行動についてほとんどの学生が「だいたい」か「いいえ」と回答しているのである。その理由の一つに学生の学習意欲の少なさを上げることができよう。このことは家庭における勉強時間や読書量の少なさからも伺うことができる。学生に対するアンケートでは勉

強時間は次のようである。

勉強時間	平日	休日
0分	60人(36%)	65人(39%)
～30分	50人(30%)	27人(16%)
～60分	49人(30%)	49人(30%)
～120分	4人(2%)	17人(10%)
120分～	2人(1%)	7人(4%)

勉強時間0分の学生のうちで、平日も休日も0分という回答をしたのは52人(32%)である。

また短大に入学してから1年半の間に教科書以外に読んだ本については次のようであった。

短大入学後に読んだ本の冊数

0冊	25人(15%)
～3冊	77人(47%)
～5冊	26人(16%)
～10冊	18人(11%)
～15冊	3人(2%)
～20冊	7人(4%)
20冊～	7人(4%)

ピアノは練習していないと毎週の授業についていけないため、ほとんどの学生がそれなりに練習の時間を取っているが、それ以外の勉強時間や本を読むことは非常に少ない。もちろん、これは本学の学生に限ったことではないが、こうしたことから学生が自分の課題に気づくこともなかなか期待できないと考えられる。

それゆえ、短大生といえども、基本的な行動や礼儀作法について今後は個別の指導の必要性が増してくるのではないだろうか。

## 8. 実習園に対するアンケート調査

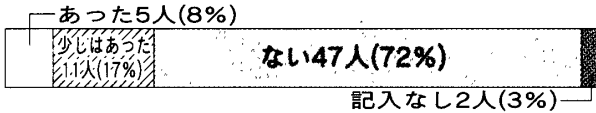
これまで述べてきたことは実習園から送られてきた評価表に記されたコメントをもとにして検討したものであるが、さらに問題点を明確にするために実習園に対してアンケート調査を行なった。調査対象は1年次に行なった保育実習先108園と2年次の教育実習先78園で、8月にアンケート用紙を郵送し、1か月ほどの間に解答を戴くようお



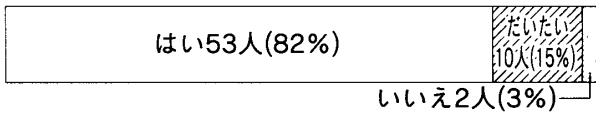
願いました。戻ってきたアンケート用紙は保育園が65園、幼稚園は47園で、回収率はどちらも60パーセントであった(9月20日現在)。次にその結果を紹介してみよう。

[保育園からの回答]

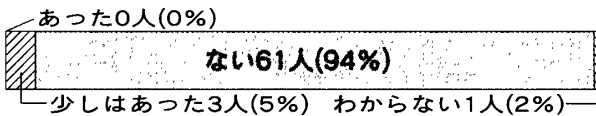
<質問1> 実習に取り組む態度に問題がありましたか。



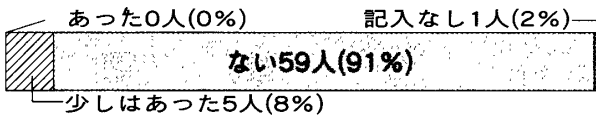
<質問2> 実習生らしい服装でしたか。



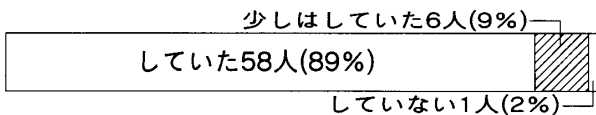
<質問3> アクセサリー・お化粧品に問題がありましたか。



<質問4> 髪型・髪の色に問題はありませんでしたか。



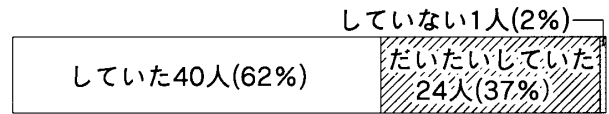
<質問5> 時間に余裕を持って出勤していましたか。



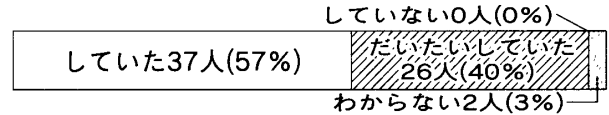
<質問6> 指示されなくても自分から行動しようとしていましたか。



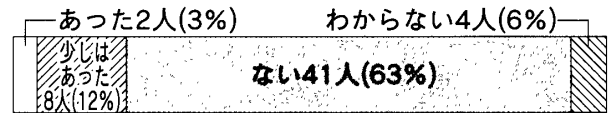
<質問7> 先生方に対する朝の挨拶はきちんとしていましたか。



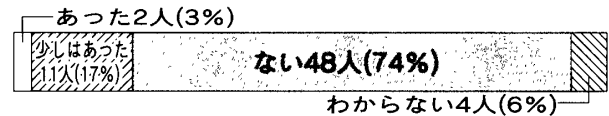
<質問8> 先生方に対する帰りの挨拶はきちんとしていましたか。



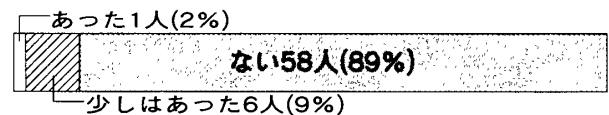
<質問9> 先生方に対する言葉づかいに問題がありましたか。



<質問10> 子どもに対する言葉づかいに問題がありましたか。



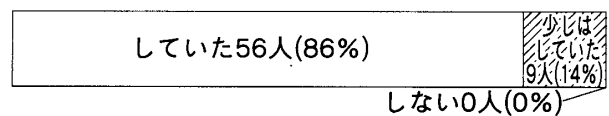
<質問11> 話を聞くときの態度に問題がありましたか。



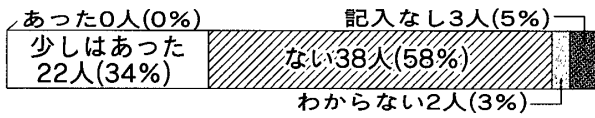
<質問12> わからないことは自分から質問していましたか。



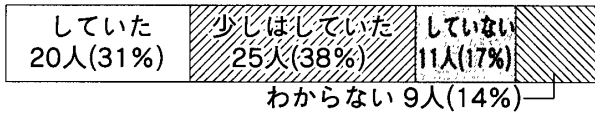
<質問13> 返事は「はい」としっかりしていましたか。



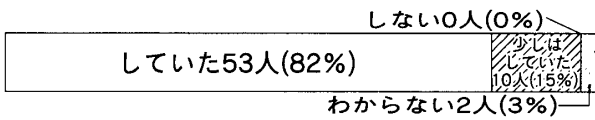
<質問14>掃除の仕方に問題はありませんでしたか。



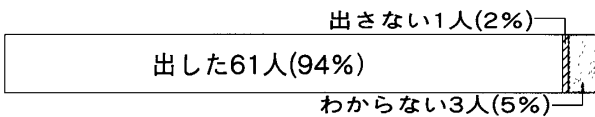
<質問15>教室の整理整頓をしようとしていましたか。



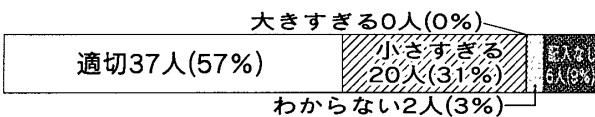
<質問16>指示されたことはきちんと実行していましたか。



<質問17>提出物は期限までに出了ましたか。

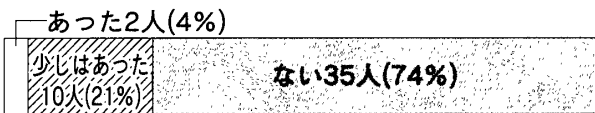


<質問18>先生や子どもと話すときの声の大きさは適切でしたか。

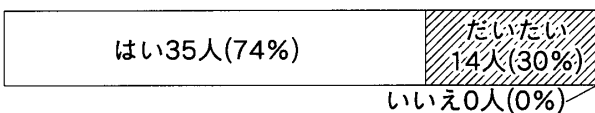


[幼稚園からの回答]

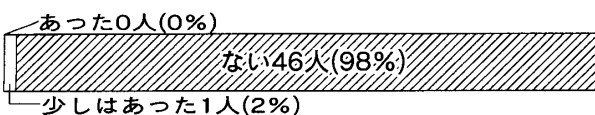
<質問1>実習に取り組む態度に問題はありませんでしたか。



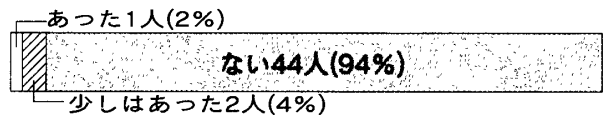
<質問2>実習生らしい服装でしたか。



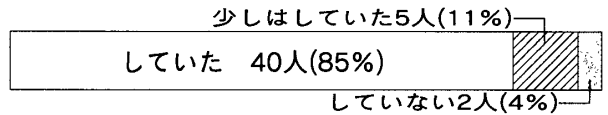
<質問3>アクセサリ・お化粧品に問題はありませんでしたか。



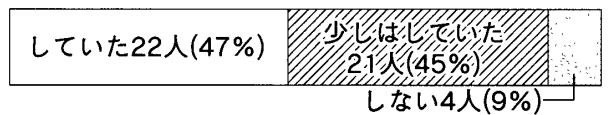
<質問4>髪型・髪の色に問題はありませんでしたか。



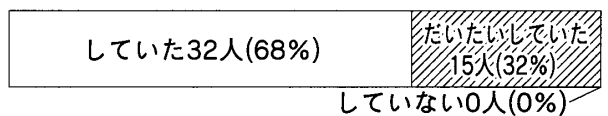
<質問5>時間に余裕を持って出勤してましたか。



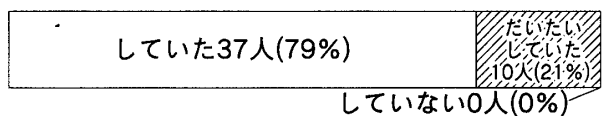
<質問6>指示されなくても自分から行動しようとしていましたか。



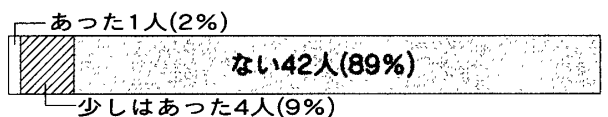
<質問7>先生方に対する朝の挨拶はきちんとしてましたか。



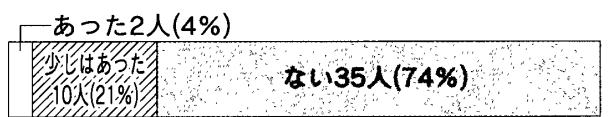
<質問8>先生方に対する帰りの挨拶はきちんとしてましたか。



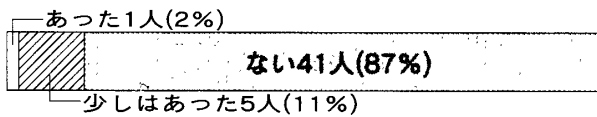
<質問9>先生方に対する言葉づかいに問題はありませんでしたか。



<質問10>子どもに対する言葉づかいに問題はありませんでしたか。



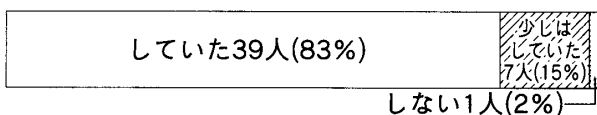
<質問11>話を聞くときの態度に問題がありましたか。



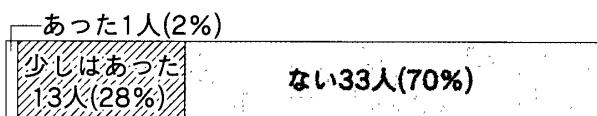
<質問12>わからないことは自分から質問していましたか。



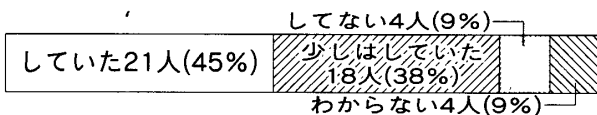
<質問13>返事は「はい」としっかりしていましたか。



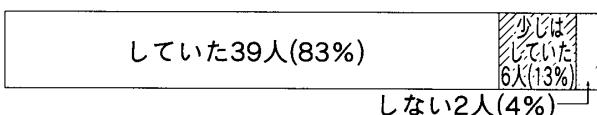
<質問14>掃除の仕方に問題がありましたか。



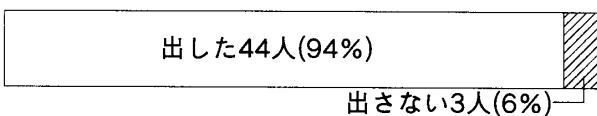
<質問15>教室の整理整頓をしようとしていましたか。



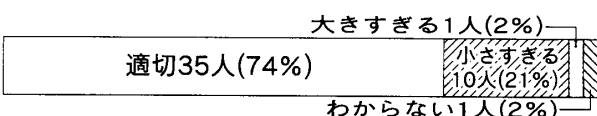
<質問16>指示されたことはきちんと実行していましたか。



<質問17>提出物は期限までに出了ましたか。



<質問18>先生や子どもと話すときの声の大きさは適切でしたか。



アンケートの結果から、実習生の服装やアクセサリやお化粧・髪型や髪の色には問題がなかったことがわかった。しかし、それ以外の項目では評価表で指摘されたように積極的・主体的な行動が不足していること、言葉づかいや敬語に問題があること、わからなくてもなかなか質問しないこと、教室の整理整頓が十分でないことなどが課題として確認できた。声が小さいという指摘は2年次では少し減少したようであるが、それ以外の項目は1年次と2年次でほとんど変化していないこともわかった。

それゆえ、こうした日常生活の基層部分に関する行動を改めることがいかに難しいかを再認識するとともに、保育者を目指す学生一人一人に対して根気強く働きかけていかななくてはならないと考えている。

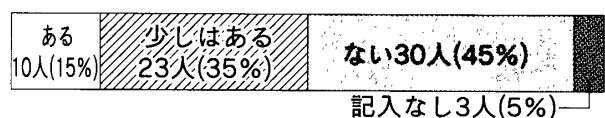
## 9. 卒業生に対する評価について

本学卒業生の保育職への就職率は毎年90パーセント以上を維持している。当然のことながら、今回取り上げたような問題が卒業生にもあてはまることは想像に難くない。

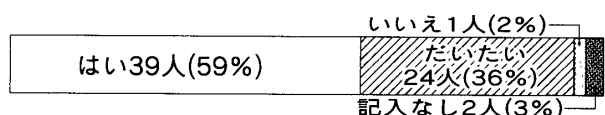
そこで、実習生のアンケート調査と同時に卒業生に対する評価も調査してみた。実習生のアンケート用紙と同時に発送して回答を依頼した結果、卒業生が勤務している66の保育園と48の幼稚園から回答を戴いた。以下はその結果である。

[保育園からの回答]

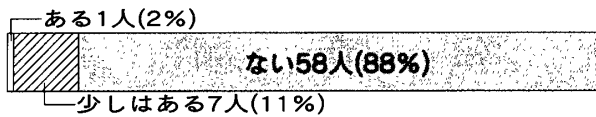
<質問1>仕事に取り組む態度に問題はありませんか。



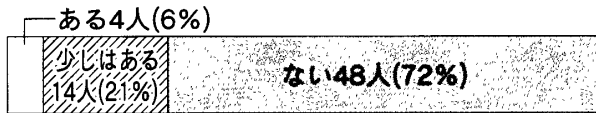
<質問2>保育者らしい服装をしていますか。



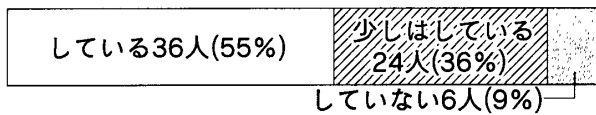
<質問3> アクセサリーやお化粧品に問題がありますか。



<質問4> 髪型や髪の色に問題がありますか。



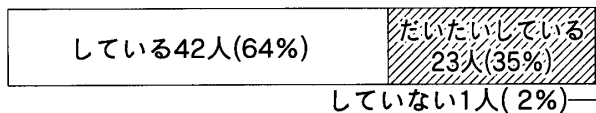
<質問5> 時間に余裕を持って出勤していますか。



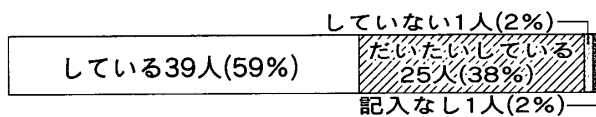
<質問6> 指示されなくても自分から行動しようとしていますか。



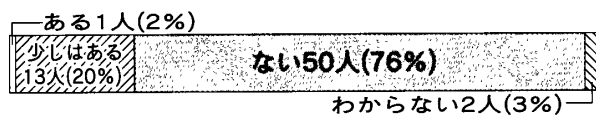
<質問7> 先生方に対する朝の挨拶はきちんとしていますか。



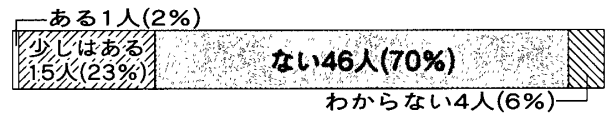
<質問8> 保護者に対する挨拶はきちんとしていますか。



<質問9> 先生方に対する言葉づかいに問題がありますか。



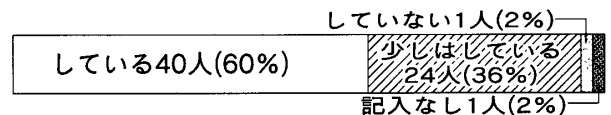
<質問10> 保護者に対する言葉づかいに問題がありますか。



<質問11> わからないことは自分から質問していますか。



<質問12> 返事は「はい」としっかりしていますか。



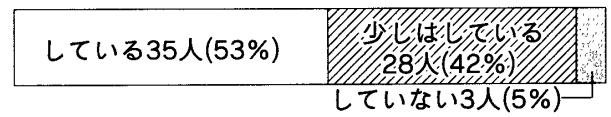
<質問13> お掃除の仕方に問題がありますか。



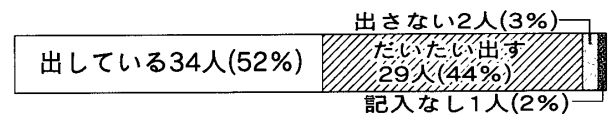
<質問14> 教室の整理整頓に配慮をしていますか。



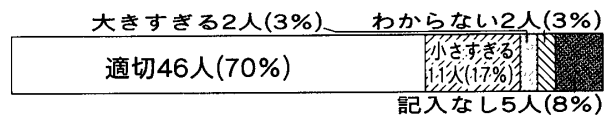
<質問15> 指示されたことはきちんと実行していますか。



<質問16> 提出物は期限までに出しますか。

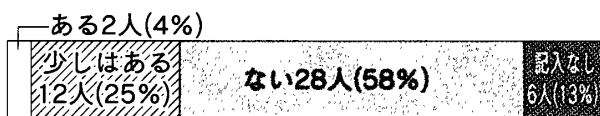


<質問17> 先生や子どもと話すとき声の大きさは適切ですか。

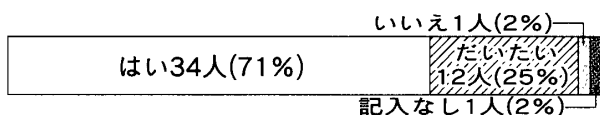


[幼稚園からの回答]

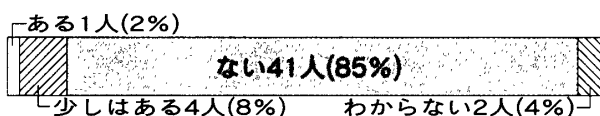
<質問1>仕事に取り組む態度に問題がありますか。



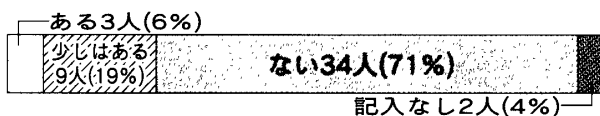
<質問2>幼児教育者らしい服装をしていますか。



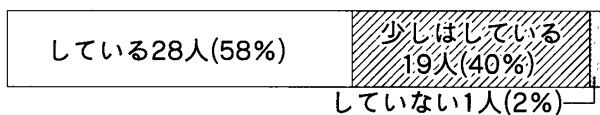
<質問3>アクセサリーやお化粧品に問題がありますか。



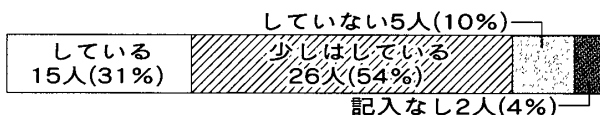
<質問4>髪型や髪の色に問題がありますか。



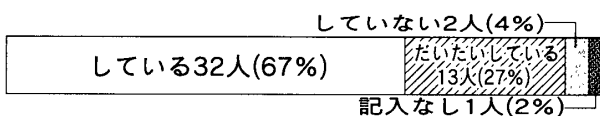
<質問5>時間に余裕を持って出勤していますか。



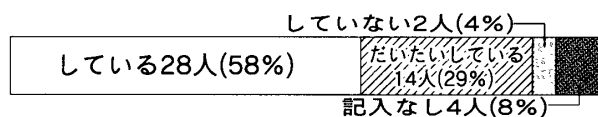
<質問6>指示されなくても自分から行動しようとしていますか。



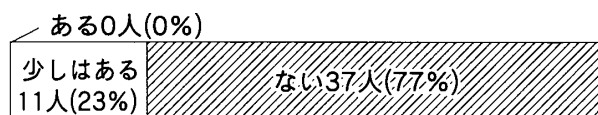
<質問7>先生方に対する朝の挨拶はきちんとしていますか。



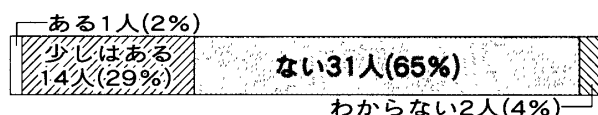
<質問8>保護者に対する挨拶はきちんとしていますか。



<質問9>先生方に対する言葉づかいに問題がありますか。



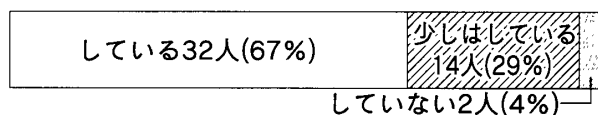
<質問10>保護者に対する言葉づかいに問題がありますか。



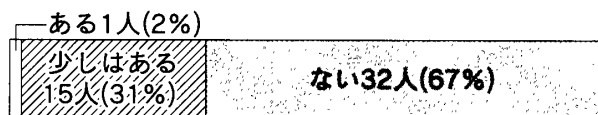
<質問11>わからないことは自分から質問していますか。



<質問12>返事は「はい」としっかりしていますか。



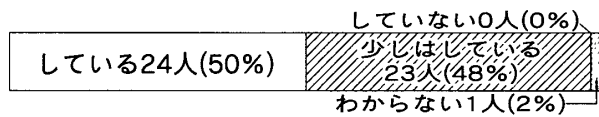
<質問13>お掃除の仕方に問題がありますか。



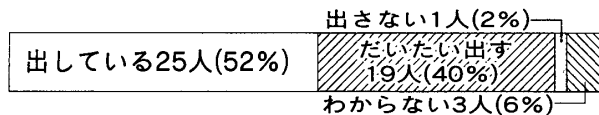
<質問14>教室の整理整頓に配慮をしていますか。



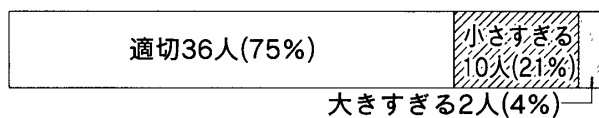
<質問15> 指示されたことはきちんと実行していますか。



<質問16> 提出物は期限までに出しますか。



<質問17> 先生や子どもと話すとき声の大きさは適切ですか。



卒業生に対する調査から、幼稚園に就職した卒業生と保育園に就職した卒業生の評価には、大きな差異のないことがわかった。そして「言葉づかい」「わからないことを質問する」「掃除」「声の大きさ」「指示されないと行動しない」などの項目は実習生と同じような問題点が指摘されている。また、「返事」「挨拶」「服装」では問題のないことが伺えた。

その一方、「仕事に取り組む態度」では保育園の半数から「問題がある」「少し問題がある」との回答があり、幼稚園でも30パーセントの園で問題があると指摘された。問題がある場合には具体的に記入をお願いしたのだが、そこには次のような事柄が記されている。

#### [保育園からの指摘]

- \* 言葉づかいに問題がある。
- \* 計画性や創造性がない。
- \* 自分から仕事をみつけられない。
- \* 欠勤が目立つ。
- \* 指示されないと動けない。
- \* 積極性が欠けている。
- \* 生活体験が不足している。
- \* 楽しそうな表情が見られない。
- \* 協調性が欠けている。

- \* 社会性が身に付いていない。
- \* 疑問点があっても質問しようとししない。
- \* 仕事に対する意欲が感じられない。
- \* 挨拶がしっかりとできない。
- \* 仕事を甘く考えている。
- \* 指示されたこと以外はしない。

#### [幼稚園からの指摘]

- \* 理由不明の欠勤が多い。
- \* やる気や意欲が欠けている。
- \* 自分から進んで行動しようとししない。
- \* 自分が選んだ仕事に責任を持たない。
- \* 積極的に子どもと関わろうとししない。
- \* 分からなくても聞こうとししない。

問題のある場合には具体的に記入するようになっていたが、空欄の園も多くてそのすべてを窺い知ることができなかった。この点は大変に気になるところである。

もう一つ、「髪型」「髪の色」に関しては保育園の約30パーセント、幼稚園の25パーセントから「問題がある」「少し問題がある」との回答が寄せられ、そのほとんどが「茶髪」に悩んでいることがわかった。今回の卒業生に対する調査は実習生を受け入れて戴いた保育園・幼稚園に大まかな質問をただけで、勤務している卒業生の人数や勤務年数を把握するまでには至っていないが、いくつかの問題点が明らかになった。

もちろん、卒業生の多くが保育園や幼稚園でよい評価を受けていることもわかったが、保育者としての資質にばらつきがあるため、問題を抱えた卒業生を採用した一部の園で本学に対する評価が低下することが懸念される。さらに、勤務年数が長くなるにつれて仕事への取り組みがマンネリ化して、研修意欲や向上心に欠ける傾向も指摘された。こうしたことから、今後は卒業生に対する再教育も必要になってくるであろう。

## 10. おわりに

今回、大人としての基本的な行動の仕方とそれ

に対する学生の意識を調査して実習園の評価を比較し、さらに実習園へのアンケート調査を検討した結果、学生の自己認識の甘いことが明らかになった。人的な環境として子どものお手本となるべき保育者には、見過ごすことのできない問題である。しかも、日頃の学習態度や家庭教育の現状からは主体的な改善はなかなか期待できないと考えざるを得ない。それゆえ、今後は学生に対しますますきめ細かな指導を行なうことによって客観的な自己評価をする機会を設け、自分の課題に気づかせることが必要となるであろう。

また、こうした傾向が卒業後もあまり変化していないこともわかった。そこで、保育現場と連携して卒業後の再教育の場を設けることも重要に

なってくると思われる。

### [註]

- (1) 「21世紀への視座 中村桂子さんと考える」  
(読売新聞 1998年5月16日)
- (2) 岸井勇雄『幼児教育課程総論』(同文書院1991年 51ページ)
- (3) 小田豊他編『新しい教育課程と保育の展開幼稚園』(東洋館出版社 1999年 10ページ)
- (4) 柴崎正行監修・著『保育者の新たな役割』  
(小学館 1999年 35ページ)
- (5) このことに関しては拙稿「保育科学生の文章表現力について」(育英短期大学研究紀要第19号 2002年69～80ページ)を参照。

(2002年9月30日 受理)

# Some Problems on Basic Behavior and Manners of the Students of Preschool Education : Comparing Their Self-Recognition with the Valuation of Their Guidance Teachers of Nurseries or Kindergartens

Tatsuzen Sato

## Abstract

It is often said that “through nursery personality of a nurse can be seen.” One of the features of infants age is imitate and the word “imitate” is derived from “copy.”

From this point of view, everything a nurse does as human environment affects children’s behavior, growth and development. Moreover, it exerts an influence as a matter of course upon their mind and future humanity to a great extent.

Therefore, it is natural that a nurse should set “a good example” to their children, always thinking how to live as “a human being.”

However, students aiming at working as nurses actually don’t have a clear consciousness of what is stated above and it seems to me that their behavior gives rise to various public discussion. So investigating the facts of the students’ behavior and their self-recognition, then comparing them with the valuation of their guidance teachers of nurseries or kindergartens, I viewed from many angles. In result, I have found some problems indispensable for educating desirable nurses.